

第4回環境影響評価審査会
事務局資料
平成30年7月30日

横浜港新本牧ふ頭地区公有水面埋立事業
環境影響評価準備書に関する指摘事項等一覧

■事業計画について

項目	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
事業計画	住居系地域の分布状況及び悪臭防止法に基づく規制地域の図は修正が必要ではないか。 [7/12 審査会]	修正する。 [7/12 審査会]	補足資料1で説明 [本日]
	計画段階配慮の手続きを実施することでどのような効果があったか。 [7/12 審査会]	複数案の検討段階で、社会的、経済的観点からフィルターを掛けながら絞ることで評価の環境的視点が深まり、効果があったと考えている。 [7/12 審査会]	説明済み [7/12 審査会]
	回避と低減をどのように使い分けているのか。 [7/12 審査会]	回避と低減は使い分けておらず、基準を下回っていて回避されているか、若しくは、様々な環境保全措置を講じることで低減が図られているか、という2つの側面から評価する際に、回避又は低減という言葉を使用している。 [7/12 審査会]	説明済み [7/12 審査会]

■環境影響評価項目について

項目	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
地盤	地盤改良を行わない埋立部の圧密沈下が問題とならないか。 [7/12 審査会]	埋立て後のペーパードレーンにより、埋立部と現地盤を改良し、所定の許容沈下量となるようにする。 [7/12 審査会]	説明済み [7/12 審査会]
地盤	地震時に埋立部の現地盤が液状化することはないのか。 [7/12 審査会]	設計段階で液状化判定を行う。現時点では、液状化は生じないという判定結果が出ている。 [7/12 審査会]	説明済み [7/12 審査会]
大気質	建設機械と工事用船舶を同時に使用することはないのか。 [7/12 審査会]	同時に使用することを想定しているので、表現を改める。 [7/12 審査会]	説明済み [7/12 審査会]

この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることもありますので、取扱いにご注意願います。

項目	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
大気質	SOx、NOx、SPM の1日あたりの排出量について、それぞれの排出原単位の出典を明らかにする必要がある。また、SOx 算出式の単位が誤っていないか確認する必要がある。 [7/12 審査会]	確認する。 [7/12 審査会]	補足資料2で説明 [本日]
大気質	船舶工事の排出源が点源、面源のどちらで設定されているかを示す必要がある。 [7/12 審査会]	承知した。 [7/12 審査会]	補足資料3で説明 [本日]
大気質	事業者の調査した風向・風速のデータと横浜気象台のデータの相関を示す必要がある。 [7/12 審査会]	承知した。 [7/12 審査会]	補足資料4で説明 [本日]
騒音	騒音を推定するための交通量条件として、1日あたりの走行台数を8等分することが妥当か。 [7/12 審査会]	南本牧ふ頭の工事では、ピークに車両が集中しないように車両台数を調整している。本事業の工事でも想定した台数以上にならないように調整できると考えている。 [7/12 審査会]	説明済み [7/12 審査会]
水質	各環境影響評価項目の環境影響が最大となる時期はどのように決めたのか。 [7/12 審査会]	工事の重複時期とそれぞれの工種が各項目に与える影響を勘案し、項目ごとに環境影響が最大となる時期を決めた。 [7/12 審査会]	説明済み [7/12 審査会]
水底の底質	水底の底質の予測のよりどころである事業実施前後の潮流シミュレーションの結果を示すことが望ましい。 [7/12 審査会]	潮流シミュレーションの予測結果は、準備書7-7-6ページに記載している。 [7/12 審査会]	説明済み [7/12 審査会]